

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人 心のまほろば		
代表者	緒方 源信	担当者	緒方 源信
所在地	〒850-0874 長崎市 魚の町 3番30号 TEL: 095-822-3010 FAX: 095-822-3010 E-mail:		
設立の経緯 ／沿革	・設立に至るまで 有志と「汝がさき」仲間の会を設立、登録商標「汝がさき」を申請した。 平成15年夏の長崎高総体では、開会式で公開演技を披露した高校生に、市内の企業団体の支援を受けて、「汝がさき」印入り手拭いを贈呈した。 平成15年4月から、一部の会員で街づくり仲間の会を結成し、長崎市の道路里親に認定され、道路清掃などに取り組んでいる。 日本の自然環境の回復と、日本人の心の揺らぎを安定化することなどを目的として、住民活動の拠点となる本法人を設立した。		
団体の目的 ／事業概要	・個人と同様に、仲間の重要性も理解してもらえよう意識改革に努める。 ・食育の推進と、地産地消活動の支援を行う。 ・命を大事にする心、心のはたらきの解明、その育成などを推進する。 ・「持続する共存平和」の推進、「共存文化」の認識の拡大などによって、長崎の観光振興を支援する。 ・「真心、思いやりの心、おもてなしの心、譲り合いの心、助け合いの心」などを象徴する登録商標「汝がさき」の普及を図る。 ・自発的に「学んで」「生きる」生涯学習の一環、志尚塾の出前講座をする。		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	命と食に関する検討と提案。 心の育成に関する検討と提案。 長崎の観光振興に関する検討と提案。 冊子「命のすじみち すすむ道」の自費出版。 冊子「共存の心やわらぐ 長崎の街」の自費出版。 冊子「生きる心の綾錦」の自費出版。 「命と心、共存による共栄」と題する講話の実施。 志尚塾の一環として、職業訓練校等における講話の実施。 定期紙「共存文化」の刊行。 地産地消の推進に協力。 道路里親として、市内の川沿い遊歩道などの清掃。 さらに、長崎県地球温暖化対策協議会に一般委員として参加するなど、長崎県と長崎市の審議会、協議会などの公募委員を勤めている。		
ホームページ			
設立年月	平成15年 11月	*認証年月日(法人団体のみ) 平成16年 4月 2日	
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高 (H17)	円
組 織	スタッフ/職員数 1名 (内 専従 0名) 個人会員 18名 : 法人会員 名 : その他会員(賛助会員等) 1名		

政策のテーマ 「家庭の生ゴミ・燃やせるゴミは、水分を減らし、乾燥させて出す」

■政策の分野

- ・②地球温暖化の防止
- ・個人、家庭、職場でのライフスタイルの見直し

■政策の手段

- ・⑬国民参加の促進
- ・市民参画

団体名：特定非営利活動法人 心のまほろば

担当者名：緒方 源信

■キーワード	生ゴミ	燃やせるゴミ	水分	乾燥	燃料節減
--------	-----	--------	----	----	------

① 政策の目的

毎日家庭から出る「生ゴミ」は、堆肥にするのが理想ですが、都市中心部では、臭気などの問題もあり、燃やせるゴミとして処理されます。その時に、生ゴミはできるだけ水分を少なくし、可能ならば、乾燥させることによって、焼却場で消費する燃料を節減することができます。

国民全員が、これに取り組み、毎日のことであり、物心両面で大きな効果が期待されます。

② 背景および現状の問題点

生ゴミの問題は、様々な課題を抱えており、もったいない運動、処理法などがあります。

長崎市でも、過去、家庭でも生ごみの堆肥化を試みて、コンポストの利用を奨励したこともありますが、臭気問題などがあり、現在は中止しています。家が密集している都市の中心部では、生ごみの堆肥化には、大きな障害があります。

本来は、生ゴミは、燃やせるゴミから分別すべきものですが、仕方なく、生ごみは燃やせるゴミとして焼却されていますので、その燃料を少なくすることが、地球温暖化対策になります。

なお、生ゴミそのものは、空気中と海水中の炭素から合成されるので、燃やしたとしても、それ自体は、二酸化炭素の増大につながりません。

③ 政策の概要

家庭から毎日出される生ゴミについて、調理をする時に、その都度、出来だけ水気を切るようにすると共に、その生ゴミから、水分が蒸発し易いように工夫をします。さらに、可能ならば、水分がなくなるように乾燥させることにします。

そして、生ゴミを乾燥させるためには、その生ゴミが、直接空気に触れるようにし、また、自然の風に当たるように工夫をします。

それには、ポリエチレンやビニールなど、密封性のある容器ではなく、紙袋や蓋のない紙箱などを使用することにします。

ここで提案するのは、新聞のチラシなどを利用して、家庭で簡単にできる「蓋のない箱」をつくり、それに生ゴミを入れておき、少しでも、生ごみの水分を蒸発させる方法です。

これを、全国の家庭に紹介して、身近なところから、毎日の生活で、気軽に手軽に、地球温暖化に取り組むことができるようにするわけです。

さらに、子どもたちにとっても、この箱作りを手伝う中から、手先が器用になることが、期待されます。そして、この箱作りが、地球温暖化につながることを実感し、具体的に学ぶことができます。

温もりのある地域共同体を築き上げるためには、まず、家族や仲間と共存しながら、一緒になって、絆を強くすることです。そして、それを地域という世の中に広げ、さらに、広い世間で共存するようにつくりあげることが、極めて大事なことでないでしょうか。

これが、共存による共栄の道につながります。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

まず、下記のような、「チラシで紙箱をつくる方法」について、その普及を図ります。

1. まず、①長方形のチラシを半分に折り、次に、②それを、また、半分に折ります。もとの四分の一の大きさで長方形ができます。ここで、②を反対側に折り曲げ、折り目を柔らかくしておく、後の作業が容易になります。

なお、四隅には、4枚の部分があり、その対角線上に頂点があります。

2. 頂点につながる短辺を持ち上げて開き、その短辺が長辺の上に重なるようにして、屋根型の形に折ります。全体を裏返して、同様に折り込みます。

中央に裂け目があり、屋根と壁と土台を持つ家の形をした五角形ができます。

3. 上側の部分で、片側の壁になっている端を持ち上げ、中心線で折り、反対側に重ねます。全体を裏返して、同様に折ります。

2. と同じような家の形をした五角形ができますが、中央に隙間がありません。

4. その家形で、左側の壁に当たる部分を持ち上げて、それを中央線に合わせるようにして折ります。同様に、右側の部分も折ります。全体を裏返して、同様に折り込みます。

これで、家形の五角形ができますが、3. とは異なって、細身の家形です。

5. この五角形の裾の部分を持ち上げ、見えている二等辺三角形形状の短辺ところで、折り曲げます。

そして、折り曲げた中央部に、切り込みを入れます。

全体を裏返して、同様に折り曲げて、切り込みを入れます。

6. 切り込みで出来た自由な端部を、二等辺三角形形状の長辺の下に、折り込みます。全体を裏返して、同様に折り込みます。

7. 出来た屋根の部分折り曲げて、長方形にします。

折り目をつけることによって、箱にするとき、底の部分が広げやすくなります。

ここまでで、準備は出来あがったことになります。

8. 箱にする。

折りたたまれている口の部分を広げて、真四角にします。そして、底になる部分を丁寧に広げて、底が正方形になるように折り目をつけると、紙箱が完成します。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

市区町村が中心となって、教育委員会と共同で推進することにします。

市区町村は、住民の毎日の炊事という仕事の中で、生ゴミの水分を減らし、乾燥させることによって、地球温暖化対策に協力することになるという趣旨を徹底します。

材料となる新聞等のチラシは、再生資源に利用することも大事ですが、地球温暖化に役立たせるという使い道もあることを、住民に理解してもらいます。

なお、新聞を購読していない家庭には、隣組、自治会などの組織をうまく運用して、配付することも考えられます。

また、実際の「箱作りの作業」は、授産施設、高齢者施設などに協力を願うこともできます。

さらに、チラシを配っている新聞の販売店などの協力を要請する方法もあります。

幼稚園、小学校では、この「チラシでつくる紙箱」の作り方を、折り紙細工の一環として、児童、学童に指導します。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

毎日の炊事の仕事を通して、地球温暖化に協力しているという意識を持ち、それを高める効果が期待されます。

さらに進んで、生ゴミをできるだけ少なくする、そして、究極は、生ゴミ無くしてしまうにはどうすればいいのか、というようなことについても、関心の度合いが高まり、そのための工夫に取り組むことも期待されます。

幼稚園、小学校では、この「チラシでつくる紙箱」の作り方を、児童、学童に指導することによって、子どもたちは、手先を使った物作りの面白さを、実体験を通して知ることができます。

さらに、子どもたちの手先が器用になります。それに伴って、心の器用さも身につくことが期待されます。

同時に、資源の有効活用と、地球温暖化問題を身近に感じとることができ、地球温暖化対策のことについて、具体的に肌で体験することを通して、実地に学ぶことができます。

⑦ その他・特記事項

地球温暖化対策は、地球上の人間と生物が生きるためには、回避できない重大な課題になっています。その具体的な取り組みでは、企業・団体の努力に期待するところが極めて大きいわけです。それと同時に、生活者、消費者、つまり住民の意識を高め、地球温暖化対策への具体的な取り組みも大事なことです。

例えば、地域の住民が、地球温暖化対策に取り組む具体例として、下記の5項目があります。

1. 電気の使用量を減らす。（もったいない運動）
2. 石油製品のレジ袋を節減する。（買い物袋・籠、風呂敷などで代用する。貰ったレジ袋は燃やさない、再利用する、再生するなど）
3. 生ゴミ対策を実行する。

生ごみは、もともと空気中や海中の炭素をもとに合成されたものであり、また、乾燥すれば燃えるので、燃やしても差支えない。

しかし、できれば堆肥やバイオマスなど、有機物として有効利用を図ることが望ましい。

そして、堆肥などにしない時は燃やせるゴミに出す。その際、焼却炉の燃料節約のため、水分を極力少なくし、できれば乾燥させる。（紙箱などで乾燥させる。）

4. 自動車等の燃料消費を少なくする。（運転方法・輸送距離を配慮する。）
5. 自然の働きを理解し、それを利用する。（人の力を活用することとし、できるだけ機械類は使わないようにする。）

この中でも、毎日の生活の中で、効果的に取り組むことができるのが、3. 生ゴミ対策です。その推進のためには、家庭と学校と地域が、協同して取り組むことが、最も効果的です。それはまた、「安全で安心、安価で安定した生活」を確保するためにも、大事なことです。

人間は「自然と共存」しています。したがって、地球環境問題、地球温暖化対策などが、身近で重要な課題になっています。そして、われわれの命を伝える遺伝子と、伝統文化などをつなぐ文化子を受け継いだ「先祖とも共存」しており、今の時代を共にしている「人々とも共存」しています。また、世界の「人々との共存」が、これからの大きな課題です。

さらに、教育と環境は、「未来との共存」という極めて大きな意味をもっています。

したがって、この運動によって、自然を始め、さまざまなものと共存することの重要性が、子どもたちから大人まで、広く国民に理解されることに、大きな意味があると思います。